

日本地球掘削科学コンソーシアム 2024年度定例総会

開催日時:2024年5月23日(木) 15:00～17:00

開催方法:オンライン開催(Zoom)

議事次第(案)

1. 会議成立の確認
2. ウェブ会議の進め方説明
3. 議長選任
4. 議事次第(案) 確認・承認
5. 2023年度活動報告
 - (1) 理事会活動報告(会長)資料1
 - (2) IODP部会活動報告(IODP部会長)資料2
 - (3) ICDP部会活動報告(ICDP部会長)資料3
6. 2023年度決算報告・監査報告(財務担当理事・監事)資料4
7. 2024年度執行体制報告資料5
8. 2024年度活動方針案審議
 - (1) J-DESC活動方針案(会長)資料6
 - (2) IODP部会活動方針案(IODP部会長)資料7
 - (3) ICDP部会活動方針案(ICDP部会長)資料8
9. 2024年度予算案審議資料9
10. その他
 - (1) J-DESC会員機関現状報告資料10
 - (2) その他
11. 議長解任
12. 会長挨拶

配付資料

- | | | | |
|-----|-------------------|------|-------------------------|
| 資料1 | 理事会 2023年度活動報告 | 資料6 | J-DESC 2024年度活動方針案 |
| 資料2 | IODP部会 2023年度活動報告 | 資料7 | IODP部会 2024年度活動方針案 |
| 資料3 | ICDP部会 2023年度活動報告 | 資料8 | ICDP部会 2024年度活動方針案 |
| 資料4 | 2023年度収支決算書・監査報告 | 資料9 | 2024年度予算案 |
| 資料5 | 2024年度執行体制 | 資料10 | J-DESC 会員リスト(2024年5月時点) |

2024 年 5 月 23 日

日本地球掘削科学コンソーシアム
理事会 2023 年度活動報告

日本地球掘削科学コンソーシアム理事会

2023 年度の理事会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

理事会の活動の推進	
(活動概要) 定期的に理事会を開催し、組織運営、対外活動、研究推進、広報教育などの重要事項を審議・決定した。IODP・ICDP 両部会と連携して決定事項を遂行した。	
理事会の開催状況	
第 1 回：2023 年 7 月 10 日 ※	第 4 回：2024 年 2 月 7 日
第 2 回：2023 年 9 月 8 日	第 5 回：2024 年 5 月 16 日
第 3 回：2023 年 11 月 8 日	
備考：いずれも 2 時間程度。無印は Web 開催、※印はハイブリッド開催。	
総務	
<ul style="list-style-type: none">・理事会と両部会執行委員会の適切な分担のうえ、安定的な組織運営を行った。・ウェブサイト、メールニュース、SNS 等を通じて会員への各種情報提供を行った。・会員向けの情報提供をより分かりやすく魅力あるものとするため、前年度より実施しているホームページのリニューアルを完了した。また、メーリングリスト及びメールニュースに登録されたメールアドレスの確認・再登録、及び稼働性の低いメーリングリストの統廃合を行い、会員間の情報共有基盤を整備した。・「国連海洋科学の 10 年」(UN Ocean Decade) の Contribution として実施している J-DESC 活動を紹介する記事を海洋政策研究所の発行する Ocean Newsletter へ寄稿した。また、IODP 航海におけるライブ中継イベントを始めとした活動実績の取りまとめに着手した。・若手研究者への情報伝達、参画促進のための会合として、未来戦略タスクフォースを立ち上げた。	

- ・リポジトリコア再解析プログラム(Repository Core Re-Discovery Program: ReCoRD)の運用を開始した。理事会と IODP 部会執行委員会の混成メンバーからなるレガシーコア・データ活用方針検討タスクチームにおいて公募審査要領を作成し、3 件のプロポーザルの審査を行い、2 件を実施した。

<今後の課題>

- ・会員数の維持・拡大のための方策の検討や制度設計に向けた取組。
- ・将来の掘削科学を担う人材育成及び掘削科学の一般国民への認知度拡大を目指した組織活性化。
- ・日欧主導の IODP³における日本に求められる役割の増大を踏まえた国際委員会と国内委員会の対応関係の整理・見直しと、効率的な人材活用方法の検討。
- ・新ホームページ、メールニュース、SNS 等を通じたわかりやすい情報発信、及びホームページの持続的な保守体制の検討。
- ・国内外での地球掘削科学の認知拡大・プレゼンス向上へ向けた方策の検討と、「国連海洋科学の 10 年(UN Ocean Decade)」への貢献のあり方の再検討。
- ・IODP³ でアーカイブ活用プログラムとして SPARCs (Scientific Projects using Ocean Drilling ARChives) が始まることを踏まえ ReCoRD の今後の運用方針や評価方法などを継続して検討。

科学戦略

- ・今後 5～10 年において達成が見込まれる社会課題を優先し、日本が主導する国際プロジェクトにおいて地球深部探査船「ちきゅう」と高知コアセンターが継続的かつ効率的に運用されることを要望する「地球システムの解明を目指す国際海洋科学掘削研究の推進（要望書）」を作成し、文部科学省研究開発局長及び JAMSTEC 理事長に提出した。
- ・2025 年 1 月から開始予定の国際海洋科学掘削計画 (IODP³) に向けた掘削提案について議論するため、昨年度 (2023 年 1 月) に行われた日欧共同のオンラインワークショップ (Phase 1) に続く Phase 2 として、国際ワークショップを 2024 年 3 月に和歌山県那智勝浦町及びオンラインのハイブリッドで開催した。また、同ワークショップに向け、日本発の掘削提案

を準備するための国内事前ワークショップを 2023 年 12 月に横浜及びオンラインのハイブリッドで開催した。

- ・日本地球惑星科学連合 2023 年大会において「地球掘削科学」セッションを提案した。IODP・ICDP に関連した掘削科学研究の概要報告・新規研究成果の場を提供するとともに、ディスカッションタイムを用いて国内・国際の掘削科学状況について紹介した。

<今後の課題>

- ・2025 年 1 月に発足予定の国際海洋科学掘削計画 (IODP³) に関連する国内コミュニティへの適切な情報発信および掘削科学研究への参画の促進。
- ・「海洋科学掘削 2050 サイエンスフレームワーク」の実現に向けて、IODP³ で取り組むべき科学テーマの検討と新規掘削提案の育成を行う。
- ・国内外の掘削研究に関する情勢を分析し、積極的に国内コミュニティへ情報発信を図る。

財務

- ・2023 年度予算を執行し、決算報告を行った。J-DESC の財政及び活動方針を踏まえ、適切な予算案策定を行った。
- ・コアスクール、学会出展等のイベントは、COVID-19 感染拡大前とほぼ同様に現地開催（もしくはハイブリッド開催）ができるようになったため、活動促進に必要な予算を執行した。
- ・IODP³ に向けた日欧共催ワークショップの和歌山での開催にあたっては、参加者からの集金や和歌山県からの助成金を活用することにより、支出を少なく抑えつつ効果的なイベント運営を行うことができた。
- ・会議については、引き続き Web 会議をメインに利用しつつ、必要に応じてハイブリッド会議を開催し、コミュニケーション促進と経費節減の両立を図った。
- ・会員提案型活動経費については、財務担当理事を委員長とする審査委員会にて 2 件の申請の審査・採択を行った。

<今後の課題>

- ・将来的な収入維持・増加と最適な予算執行へ向けた対応策の検討

外務

- ・ 現行 IODP の後継プログラムの始動に向けて、国際ワーキンググループにおいて ECORD 側の関係者との協議を重ね、新しい枠組みの制度設計や MOU の草案作成を行った。
- ・ IODP³ において実施すべき掘削提案を発掘・育成するための国際ワークショップ Workshop on the future of Scientific Ocean Drilling を、2023 年 1 月の Phase 1（オンライン開催）に続き、Phase 2 を 2024 年 3 月 18-20 日に和歌山県那智勝浦町で開催した。（科学戦略会務参照）
- ・ 2023 年 7 月にポツダムで開催された ICDP25 周年記念国際ワークショップに日本の研究者を派遣し、日本が関与する ICDP プロジェクトを紹介した。

<今後の課題>

- ・ 2025 年 1 月に発足予定の IODP³（国際海洋科学掘削計画）における日本のプレゼンス発揮と実施基盤の確立。

広報・教育

- ・ 和歌山県那智勝浦町での日欧共催ワークショップの開催に合わせ、隣接する新宮市にて、地元自治体等との共催により国際科学掘削計画 市民講演会「地球の恵みを知り、災いに備えるー和歌山から始まる世界への挑戦ー」を開催した。さらに、同日同会場にて和歌山県立自然博物館や南紀熊野ジオパークセンターと協力したポスターや模型等の展示を行い、講演と展示の両方で楽しめるイベントとした。
- ・ 上記市民講演会に合わせ、地球掘削科学の科学目的について一般の人向けにわかりやすく解説したリーフレットを作成した。
- ・ 日本地球惑星科学連合 2023 年大会において JAMSTEC 及び高知大学との合同で現地ブース出展及びオンライン出展を行った。
- ・ 第 17 回岩石-水相互作用国際学会／第 14 回応用同位体地球化学国際会議（WRI17 & AIG14）においてブース出展を行った。
- ・ 日本地質学会第 130 年学術大会において JAMSTEC との合同で現地ブース出展を行った。また、出展時の状況を踏まえ、出展ブースの場所や参加者の誘導等について提案する意見書をまとめ、学会事務局に提出した。

- ・日本地震学会 2023 年度秋季大会において JAMSTEC との合同でブース出展を行った。
- ・前年度整備・公開した実施ガイドラインに基づき、IODP 研究航海の機会等を利用した船上からのオンラインイベントが実施された。乗船中の研究者が船上から母校や所属大学等に向けて中継を行う従来型のオンラインイベントに加えて、博物館などの施設で研究者が講演等を行う際に JR との中継を含める企画イベントが新たに立ち上がり、多数実施された。
- ・毎年発行している J-DESC ニュースレターについて、幅広い年代の読者獲得を念頭に制作した。
- ・掘削科学の魅力や J-DESC 及び掘削科学に係る情報について、ホームページや SNS、YouTube チャンネル等を活用して情報発信を行ったほか、共催イベントとして博物館・科学館・小学校・掘削船からのオンライン中継などの活動を 14 回実施した。

<今後の課題>

- ・ COVID-19 の影響緩和を受けた、対面／オンラインのそれぞれの良さを活かした教育プログラムの効果的な実施。
- ・掘削科学の裾野拡大のための若い世代への情報発信の推進。
- ・一般国民の理解増進やコミュニティの活性化を図るためのワークショップやシンポジウム等の計画、実施。

2024 年 5 月 23 日

日本地球掘削科学コンソーシアム

IODP 部会 2023 年度活動報告

IODP 部会執行委員会

2023 年度の IODP 部会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

部会活動の推進・総務関連
IODP 部会執行委員会の活動
(活動概要) IODP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項の検討を行い、理事会に報告した。
執行委員会の開催状況
第 1 回：2023 年 6 月 2 日
第 2 回：2023 年 11 月 9 日
第 3 回：2024 年 4 月 24 日
専門部会等
掘削航海専門部会
<ul style="list-style-type: none"> ・IODP 掘削航海の J-DESC 乗船応募者の評価をメールベースで行った。2023 年度の航海および応募者・乗船者一覧は別表 1 参照。修士課程の学生の応募に際してはオンライン面談を行い、評価の参考とした。
科学推進専門部会
<ul style="list-style-type: none"> ・IODP の終了に伴い 2023 年度は Science Evaluation Panel (SEP) 委員の新規公募がなかったため、候補者リストの更新は実施しなかった。 ・SCORE 掘削提案及び教育乗船枠の 2023 年度新規応募はなかった。 ・日欧国際ワークショップ国内準備委員会と協働し、「IODP³に係る国際ワークショップに先立つ国内準備ワークショップ」(12 月 19-20 日) 及び「Post-2024 に向けた日欧共催ワークショップ Workshop on the future of Scientific Ocean Drilling – Phase 2: Toward submission of drilling proposals for IODP³」(3 月 18-20 日) の企画に協力した。また、国内の各分野・各世代からの参加候補者リストを作成し、声掛けに役立てるなど、ワークショップへの参加促進に貢献した。
マントル掘削ワーキンググループ
<ul style="list-style-type: none"> ・ワーキンググループの会合を 2 回、ワーキンググループ主催のオンラインセ

ミナーを 1 回実施した。
科学戦略関連
健全で活力ある科学コミュニティの維持・拡大
<ul style="list-style-type: none"> ・日本と欧州海洋掘削研究コンソーシアム（ECORD）が共同で構築を進めている国際海洋科学掘削計画（IODP³）において実施すべき掘削提案を発掘・育成するため、理事会と協力して日欧共催ワークショップを開催した。
新たな科学アイデアの発掘・育成や、新規掘削提案の作成・強化支援
<ul style="list-style-type: none"> ・日本地球惑星科学連合 2023 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催した。 ・日本地球惑星科学連合 2024 年大会へのセッション提案を行った。 ・会員提案型活動経費の審査委員会に、IODP 部会から委員を選出し会員からの提案の審査を行い、ボトムアップの活動を推進した。 ・高知コアセンターに保管されているコア試料を活用したりポジトリコア再解析プログラム（ReCoRD）を立ち上げた。理事会と当執行委員会の混成メンバーからなるレガシーコア・データ活用方針検討タスクチームにおいて、3 件のプロポーザルの審査を行い、2 件を実施した。
財務関連
年度予算の策定・運用
<ul style="list-style-type: none"> ・IODP 部会の活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定し、限られた予算の効果的な運用を行った。 ・適切な Web 会議の活用により経費節減を行った。
外務関連
IODP に関わる対外的な活動および支援
<ul style="list-style-type: none"> ・IODP³ の発足に向けた取り組みとして、理事会及び JAMSTEC と協力して IODP³ Planning Meeting に参画し、欧州海洋掘削研究コンソーシアム（ECORD）との協議を進めた。 ・SEP、JOIDES Resolution Facility Board、ECORD Facility Board、IODP Forum の 4 種類の IODP 国際会議に委員・オブザーバーとして出席し、IODP 推進に貢献するとともに、国際動向の把握と国内への情報展開に努めた。IODP に関する会議開催実績は別表 2 を参照
広報・教育関連
新規活動の創出・企画の検討

<ul style="list-style-type: none"> ・ IODP 研究航海等のオンラインイベントのガイドラインについて見直しを行い、手続きの効率化を図った。ガイドラインに則って申請のあったオンラインイベントについて、J-DESC 共催イベントとして 4 件（うち 1 件は複数回の企画）を承認し、14 回実施された。
<p>学会等における広報活動</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事会及び ICDP 部会と協力し、日本地球惑星科学連合 2023 年大会、日本地質学会第 130 年学術大会、日本地震学会 2023 年度秋季大会にてブース出展した。 ・ 理事会及び ICDP 部会が中心となり企画された第 17 回岩石-水相互作用国際学会および第 14 回応用同位体地球化学国際会議（WRI17 & AIG14）へのブース出展に協力した。 ・ 2024 年に実施予定の IODP Expedition 405（JTRACK）に向け、各出展学会において、乗船研究者の応募促進のための展示やチラシ配布などを行った。
<p>若手育成・研究コミュニティの底辺拡大</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ IODP 研究航海に修士課程の大学院生の応募があった場合、オンライン面談を行い評価の参考とした。また、修士課程の大学院生が乗船研究者に選ばれた際には、適切なフォローアップができるよう、メンターを指名し、プレククルーズトレーニングを行う等の支援を行なった。 ・ J-DESC コアスクールのコア解析基礎コース、コア同位体分析コースおよび微化石コースの企画書を審査し、3 件のコースを対面で実施した。 ・ J-DESC コアスクール・コア解析基礎コースに必要な実習用コア試料が不足していることを受けて、コミュニティからの協力を得るための検討・調整を行い、コア試料の取得が実現した。 ・ J-DESC 会員を対象に、日本国内の大学・研究機関において掘削航海に関連した研究を行うことで提出された学位論文数（博士・修士・学士課程）の集計作業を行った。2023 年 6 月時点で 22 機関から回答があり、学位論文数は 172 件であった。
<p>出版物等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ J-DESC Newsletter vol. 16（日本語）電子版発行 ・ J-DESC Newsletter vol. 17（日本語）電子版の発行に向けた原稿準備
<p>その他普及活動・アウトリーチ</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ メールニュース「J-DESC Update」による各種最新情報の提供

- ・ J-DESC ホームページ及び Facebook ページの効果的活用
- ・ YouTube J-DESC Channel への協力
- ・ 関係機関による IODP 航海やその研究成果に関するプレスリリースへの協力

2023 年度以降の航海および応募者・乗船者一覧

#	航海名	プロポーザル	実施期間 (予定)	出港/入港	乗船者/ 応募者	乗船決定者	備考
---	-----	--------	--------------	-------	-------------	-------	----

JOIDES Resolution (JRSO)

399	Building Blocks of Life, Atlantis Massif	937-Full2	2023/4/12- 2023/6/12	Ponta Delgada to Ponta Delgada, Portugal	1 名/3 名 1 名/3 名	・阿部 なつ江 (JAMSTEC) ・野坂 俊夫 (岡山大学)	航海終了
395	Reykjanes Mantle Convection and Climate	892-Full2 892-Add	2023/6/12- 2023/8/12	Ponta Delgada, Portugal to Reykjavík, Iceland	1 名/1 名 1 名/2 名	・鈴木 拓馬 (島根大学) ・Saran Lee (東京大学)	航海終了
400	NW Greenland Glaciated Margin	909-Full2	2023/8/12- 2023/10/12	St. John's to St. John's, Canada	2 名/4 名	・関 宰 (北海道大学) ・横山 由香 (東海大学)	航海終了
401	Mediterranean-Atlantic Gateway Exchange	895-Full3 & 895-Add2	2023/12/10- 2024/02/09	Amsterdam, Netherlands to Napoli, Italy	3 名/4 名	・江川 浩輔 (九州大学) ・田中 えりか (高知大学) ・Xunhui Xu (京都大学)	航海終了
402	Tyrrhenian Continent-Ocean Transition	927-Full2 & 927-Add3	2024/02/09- 04/08	Napoli to Napoli, Italy	3 名/4 名	・秋澤 紀克 (東京大学) ・安邊 啓明 (京都大学) ・森下 知晃 (金沢大学)	航海終了
403	Eastern Fram Strait Paleo-Archive	985-Full2 & 985-Add	2024/06/04- 08/02	Amsterdam, Netherlands To Amsterdam, Netherlands	3 名/7 名	・飯塚 睦 (北海道大学) ・菅沼 悠介 (極地研究所) ・酒井 雄飛 (京都大学)	乗船者決定済

Mission Specific Platform (ESO)

389	Hawaiian Drowned Reefs	716-Full2	2023/08/31-10/31	Honolulu to Honolulu, Hawaii		HUMBLET Marc(名古屋大学) *浅海 竜司 (東北大学) *福與 直人 (東京大学) *横山 祐典 (東京大学) * Onshore Science Party Only	航海終了
406	New England Shelf Hydrogeology	637-Full2	TBD	TBD	3名/4名	・新谷 毅 (産総研) ・林 武司 (秋田大学) ・ Shuai Feng (京都大学)	航海延期

Chikyu

405	Japan Trench Tsunamigenesis (JTRACK)	835-Full2	2024/09/6- 12/20	Shimizu to Shimizu, Japan	19 名/25 名	共同首席研究者 小平 秀一 (JAMSTEC) 氏家 恒太郎 (筑波大学) 乗船研究者 石川 剛志 (JAMSTEC) 井尻 暁 (神戸大学) 岩井 雅夫 (高知大学) 内田 泰蔵 (高知大学) 奥田 花也 (JAMSTEC) 金松 敏也 (JAMSTEC) 神谷 奈々 (京都大学) 張瑜 峻 (JAMSTEC) 中村 恭之 (JAMSTEC) 萩野 穰 (山形大学) 濱田 洋平 (JAMSTEC) 林 為人 (京都大学) 福地 里菜 (鳴門教育大学) 細野 日向子 (産総研) 宮川 歩夢 (産総研) 諸野 祐樹 (JAMSTEC) 山口 飛鳥 (東京大学) 山本 由弦 (神戸大学) 吉本 剛瑠 (神戸大学)	乗船者決定済
-----	---	-----------	---------------------	------------------------------	-----------	--	--------

2023年度に開催されたIODP関連国際会議とJ-DESCが派遣した出席者

*オンライン参加

会議名称	開催日	会場（ハイブリッド開催）	出席者
IODP Forum Meeting	2023/4/22-4/28	Sitzungssaal of the Austrian Academy of Sciences	島 伸和（CIB委員長・神戸大学）
			益田 晴恵（IODP部会長・大阪公立大学）
JOIDES Resolution Facility Board (JRFB)	2023/5/16-5/17	American Geophysical Union Conference Center	島 伸和（CIB委員長・神戸大学）*
			益田 晴恵（IODP部会長・大阪公立大学）*
Chikyu IODP Board (CIB)	2023/6/7-6/8	神戸大学	島 伸和（ CIB委員長 ・神戸大学）
			沖野 郷子（CIB委員・東京大学大気海洋研究所）
			木下 正高（CIB委員・東京大学地震研究所）
			益田 晴恵（IODP部会長・大阪公立大学）
			諸野 祐樹（EFB委員・JAMSTEC）
Science Evaluation Panel (SEP)	2023/6/28-6/29	University of Pavia	白石 和也（SEP委員・JAMSTEC）
			仲田 理映（SEP委員・東京大学）*
			浜橋 真理（SEP委員・山口大学）
			針金 由美子（SEP委員・産業技術総合研究所）
			松崎 賢史（SEP委員・東京大学大気海洋研究所）
			山口 耕生（SEP委員・東邦大学）
			山本 由弦（SEP委員・神戸大学）
IODP Forum and PMO Meeting	2023/10/10-10/13	University of Wollongong	木下 正高（CIB委員・東京大学地震研究所）*
			島 伸和（CIB委員長・神戸大学）
			益田 晴恵（IODP部会長・大阪公立大学）
			諸野 祐樹（EFB委員・JAMSTEC）*
Science Evaluation Panel (SEP)	2024/1/10-1/11	Scripps Institution of Oceanography	白石 和也（SEP委員・JAMSTEC）
			仲田 理映（SEP委員・東京大学）
			浜橋 真理（SEP委員・山口大学）
			針金 由美子（SEP委員・産業技術総合研究所）*
			松崎 賢史（SEP委員・東京大学）
			山口 耕生（SEP委員・東邦大学）
			山本 由弦（SEP委員・神戸大学）
interim MSP-FB meeting	2024/3/14-3/15	神戸大学	島 伸和（ CIB委員長 ・神戸大学）
			沖野 郷子（CIB委員・東京大学大気海洋研究所）
			木下 正高（CIB委員・東京大学地震研究所）
			益田 晴恵（IODP部会長・大阪公立大学）
			諸野 祐樹（EFB委員・JAMSTEC）

会議名称	開催日	会場 (ハイブリッド開催)	出席者
Workshop on the future of Scientific Ocean Drilling – Phase 2: Toward submission of drilling proposals for IODP3	2024/3/18-3/20	那智勝浦町体育文化会館	木下 正高 (WS共同運営委員長・東京大学地震研究所)
			阿部 なつえ (WS運営委員・JAMSTEC)
			氏家 恒太郎 (WS運営委員：筑波大学)
			黒田 潤一郎 (WS運営委員・東京大学大気海洋研究所)
			黒柳 あずみ (WS運営委員・東北大学) *
			松崎 賢史 (WS運営委員・東京大学大気海洋研究所)
			諸野 祐樹 (WS運営委員・JAMSTEC)
			山口 飛鳥 (WS運営委員・東京大学大気海洋研究所)
			益田 晴恵 (IODP部会長・大阪市立大学)

2024年5月23日

日本地球掘削科学コンソーシアム

ICDP 部会 2023 年度活動報告

ICDP 部会執行委員会

2023 年度の ICDP 部会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

執行委員会の開催 ・ 総務関連
<ul style="list-style-type: none">・ ICDP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項を検討・実施し、理事会に報告した。・ ICDP 部会執行委員会を以下の通り開催した。
執行委員会の開催状況
第 1 回：2023 年 7 月 5 日 Web 開催
第 2 回：2023 年 12 月 1 日 ハイブリッド開催
第 3 回：2024 年 5 月 10 日 Web 開催
科学戦略関連
地球掘削科学の振興と日本の研究提案力の強化
<ul style="list-style-type: none">・ ICDP 掘削提案サポート制度（日本からの ICDP 掘削提案がより良いものとなるよう、希望者の提出前のプロポーザルにアドバイスをを行う制度）について、申請方法をウェブフォームに変更するなど、活用促進のための見直しを行った。さらに、プロポーザルになる前段階のアイデアの育成や計画についても気軽に相談いただけるよう、新たに「ICDP 掘削提案なんでも相談窓口」のウェブフォームを設置し、3 件の相談対応を実施した。・ 日本が関与する掘削提案について進捗のフォローアップを行い、2024 年 1 月に 3 件（Preliminary Proposal 2 件、Full Proposal 1 件）の ICDP 掘削提案書が提出された。・ 日本の研究者の ICDP 関連成果の取りまとめを継続した。また、成果情報収集の一環として、ICDP プロジェクトに関連した試料・データ等を用いて執筆された学位論文の実績を調べるための J-DESC 会員へのアンケート調査を 2024 年度から新たに開始することを決定した。・ 会員提案型活動経費の審査委員会に、ICDP 部会から委員を選出し会員からの提案の審査を行い、ボトムアップの活動を推進した。

財務関連
年度予算の策定・運用
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICDP 部会の活動予定を踏まえ、適切な年度予算の策定と執行を行った。 ・ 適切な Web 会議の活用により経費節減を行った。
外務関連
ICDP に関わる対外的な活動および支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICDP の Assembly of Governors (AOG), Executive Committee (EC), Science Advisory Group (SAG) の日本選出委員を通じて、ICDP の国際情勢について情報収集を行うとともに、情報を分析して J-DESC の活動に反映した。 ・ SAG の日本選出委員候補者の検討を行い、更新した候補者リストを SAG 議長に提出した。 ・ ICDP 設立 25 周年を記念して 7 月 21 日～23 日にポツダムで開催された国際会議 (International Conference on Continental Scientific Drilling 25+ ICDP in the Second Quarter of its First Century) に、ICDP 部会長をはじめ日本から 10 名が参加し、ICDP 科学計画 2020-2030 の目標達成に向けたアクションや ICDP の今後の方向性等について議論を行った。
国内外コミュニティの交流・連携促進
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本地球惑星科学連合 2023 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催し、地球掘削科学の裾野拡大に努めた。 ・ 日本地球惑星科学連合 2024 年大会へのセッション提案を行った。
広報・教育関連
新規活動の創出・企画の検討
<p>日本地質学会（京都大会）で開催された夜間小集会にて、ポツダムで開催された ICDP25 周年の国際会議の内容を紹介した。</p>
学会等における広報活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事会及び IODP 部会と協力し、日本地球惑星科学連合 2023 年大会、日本地質学会第 130 年学術大会、日本地震学会 2023 年度秋季大会にてブース出展した。 ・ 理事会及び IODP 部会と協力し、第 17 回岩石-水相互作用国際学会および第 14 回応用同位体地球化学国際会議 (WRI17 & AIG14) へブース出展した。展示内容は ICDP 部会が中心となり企画した。 ・ 昨年度作成した ICDP サイエンスプランの日本語版を各学会等で配布し、普及に努めた。

出版物等

- ・ J-DESC Newsletter vol. 16（日本語）電子版発行（2023 年 5 月）
- ・ J-DESC Newsletter vol. 17（日本語）電子版の発行に向けた原稿準備
- ・ メールニュース「J-DESC Update」による各種最新情報の提供
- ・ J-DESC ホームページ及び Facebook ページの効果的活用

収支計算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
【収入の部】				
年会費	3,758,000	3,855,000	-97,000	
正会員	3,040,000	3,140,000	-100,000	
正会員A	2,200,000	2,300,000	-100,000	会費納入率 100%
正会員B	840,000	840,000	0	会費納入率 100%
個人会員	18,000	15,000	3,000	会費納入率 83%
賛助会員	700,000	700,000	0	会費納入率 100%
掘削提案・成果促進支援収入	0	1,503,109	-1,503,109	
雑収入	0	54	-54	
収入計	3,758,000	5,358,163	-1,600,163	
【支出の部】				
共通経費	7,845,000	7,069,712	775,288	
会員提案型活動経費	300,000	300,000	0	
広報活動費	4,035,000	4,039,149	-4,149	
コアスクール開催費	1,455,000	708,734	746,266	
会議開催費	60,000	5,500	54,500	
調査費	300,000	0	300,000	
通信費	30,000	8,600	21,400	
雑費	70,000	48,720	21,280	残高証明、振込手数料等
謝金	60,000	0	60,000	
事務局業務委託費	530,000	491,720	38,280	
事務局会計業務費	5,000	0	5,000	
掘削提案・成果促進支援費	700,000	1,467,289	-767,289	
SCORE関連支援費	300,000	0	300,000	
理事会活動経費	660,000	166,991	493,009	
理事会活動経費	650,000	162,811	487,189	
雑費	10,000	4,180	5,820	
I O D P 部会経費	528,000	170,048	357,952	
執行部会活動経費	508,000	167,958	340,042	
雑費	20,000	2,090	17,910	
I C D P 部会経費	427,000	70,040	356,960	
執行部会活動経費	420,000	67,840	352,160	
雑費	7,000	2,200	4,800	
支出計	9,460,000	7,476,791	1,983,209	
当期収支差額	-5,702,000	-2,118,628	-3,583,372	
前期繰越収支差額	16,098,817	16,098,817	0	
次期繰越収支差額	10,396,817	13,980,189	-3,583,372	

貸借対照表

2024年 3月31日現在

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	15,244,786	16,618,126	-1,373,340
未収金	986,680	0	986,680
流動資産合計	16,231,466	16,618,126	-386,660
資産合計	16,231,466	16,618,126	-386,660
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,251,277	519,309	1,731,968
流動負債合計	2,251,277	519,309	1,731,968
負債合計	2,251,277	519,309	1,731,968
III 正味財産の部			
正味財産合計	13,980,189	16,098,817	-2,118,628
負債及び正味財産合計	16,231,466	16,618,126	-386,660

日本地球掘削科学コンソーシアムの2023年度決算書類を監査した結果
その処理は適正であったことをここに報告します。

2024年 5月 7日

監事

海野 進

監事

貸借対照表

2024年 3月31日現在

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	15,244,786	16,618,126	-1,373,340
未収金	986,680	0	986,680
流動資産合計	16,231,466	16,618,126	-386,660
資産合計	16,231,466	16,618,126	-386,660
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,251,277	519,309	1,731,968
流動負債合計	2,251,277	519,309	1,731,968
負債合計	2,251,277	519,309	1,731,968
III 正味財産の部			
正味財産合計	13,980,189	16,098,817	-2,118,628
負債及び正味財産合計	16,231,466	16,618,126	-386,660

日本地球掘削科学コンソーシアムの2023年度決算書類を監査した結果
その処理は適正であったことをここに報告します。

2024年 5月 9日

監事 小村健太郎 

監事

財産目録

2024年 3月31日現在

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	金額
(流動資産)	預金	ゆうちょ銀行振替口座	4,564,864
		三井住友/大塚	10,679,922
	未収金		986,680
流動資産合計			16,231,466
資産合計			16,231,466
(流動負債)	未払金		2,251,277
	流動負債合計		2,251,277
負債合計			2,251,277
正味財産			13,980,189

日本地球掘削科学コンソーシアム 役員

2023 年度	2024 年度
<p>会長： 川幡 穂高 (東京大学 大気海洋研究所)</p> <p>IODP 部会長： 益田 晴恵 (大阪市立大学 (現大阪公立大学) 理学研究科)</p> <p>ICDP 部会長： 藤原 治 (産業技術総合研究所 地質調査総合センター)</p> <p>理事： 池原 実 (高知大学 海洋コア国際研究所) 石橋 純一郎 (神戸大学) 氏家 恒太郎 (筑波大学 生命地球科学研究群地球科学学位プログラム) 木下 正高 (東京大学 地震研究所) 黒田 潤一郎 (東京大学 大気海洋研究所) 黒柳 あずみ (東北大学 学術資源研究公開センター) 島 伸和 (神戸大学) 針金 由美子 (産業技術総合研究所 地質調査総合センター) 森下 知晃 (金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系) 諸野 祐樹 (海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門) 山口 飛鳥 (東京大学 大気海洋研究所)</p> <p>監事： 海野 進 (金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系) 小村 健太郎 (防災科学技術研究所 地震津波防災研究部門)</p>	<p>会長： <u>益田 晴恵</u> (<u>大阪公立大学 大学院理学研究科</u>)</p> <p>IODP 部会長： <u>石橋 純一郎</u> (<u>神戸大学</u>)</p> <p>ICDP 部会長： 藤原 治 (産業技術総合研究所 地質調査総合センター)</p> <p>理事： 池原 実 (高知大学 海洋コア国際研究所) 氏家 恒太郎 (筑波大学 生命環境系) <u>岡崎 裕典</u> (<u>九州大学 大学院理学研究院 地球惑星科学部門</u>) 木下 正高 (東京大学地震研究所) 黒田 潤一郎 (東京大学大気海洋研究所) <u>戸丸 仁</u> (<u>千葉大学 大学院理学研究院 地球科学研究部門</u>) 針金 由美子 (産業技術総合研究所 地質調査総合センター) 森下 知晃 (金沢大学 理工研究域地球社会基盤学類) 諸野 祐樹 (海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門) <u>矢部 康男</u> (<u>東北大学 大学院理学研究科 / 学術資源研究公開センター</u>) 山口 飛鳥 (東京大学大気海洋研究所)</p> <p>監事： <u>池原 研</u> (<u>産業技術総合研究所 地質調査総合センター</u>) 小村 健太郎 (防災科学技術研究所 地震津波防災研究部門)</p>

IODP 部会 執行体制

2023 年度	2024 年度
<p>部会長： 益田 晴恵 (大阪公立大学 理学研究科)</p> <p>部会長補佐： 池原 実 (高知大学 海洋コア国際研究所) 針金 由美子 (産業技術総合研究所)</p> <p>部会執行委員： 大坪 誠 (産業技術総合研究所) 北村 真奈美 (産業技術総合研究所) 瀨藤 佑衣 (名古屋大学) 齋藤 めぐみ (国立科学博物館) 柵山 徹也 (大阪公立大学) 沢田 健 (北海道大学) 白石 史人 (広島大学) 鈴木 紀毅 (東北大学) 戸丸 仁 (千葉大学) 中東 和夫 (東京海洋大学) 中村 恭之 (海洋研究開発機構) 成瀬 元 (京都大学) 浜橋 真理 (山口大学)</p> <p>専門部会長： 掘削航海：成瀬 元 (京都大学)</p> <p>科学推進：戸丸 仁 (千葉大学)</p>	<p>部会長： <u>石橋 純一郎</u> (神戸大学)</p> <p>部会長補佐： 池原 実 (高知大学 海洋コア国際研究所) 針金 由美子 (産業技術総合研究所)</p> <p>部会執行委員： <u>井尻 暁</u> (神戸大学) 大坪 誠 (産業技術総合研究所) <u>神谷 奈々</u> (京都大学) 北村 真奈美 (産業技術総合研究所) 柵山 徹也 (大阪公立大学) <u>佐野 貴司</u> (国立科学博物館) 沢田 健 (北海道大学) 鈴木 紀毅 (東北大学) 中村 恭之 (海洋研究開発機構) 成瀬 元 (京都大学) <u>濱田 洋平</u> (海洋研究開発機構) 浜橋 真理 (山口大学) <u>福地 里菜</u> (鳴門教育大学) <u>松崎 賢史</u> (東京大学) <u>安川 和孝</u> (東京大学)</p> <p>専門部会長： 掘削航海：<u>濱田 洋平</u> (海洋研究開発機構)</p> <p>科学推進：<u>井尻 暁</u> (神戸大学)</p>

ICDP 部会 執行体制

2023 年度	2024 年度
<p>部会長： 藤原 治 (産業技術総合研究所 地質調査総合センター)</p> <p>部会長補佐： 佐野 貴司 (国立科学博物館)</p> <p>部会執行委員： 浅沼 宏 (産業技術総合研究所) 大坪 誠 (産業技術総合研究所) 岡崎 啓史 (広島大学) 掛川 武 (東北大学) 後藤 和久 (東京大学) 佐野 貴司 (国立科学博物館) 谷川 亘 (海洋研究開発機構) 橋本 善孝 (高知大学) 矢部 康男 (東北大学) 山田 和芳 (早稲田大学) 山田 泰広 (九州大学)</p>	<p>部会長： 藤原 治 (産業技術総合研究所 地質調査総合センター)</p> <p>部会長補佐： <u>矢部 康男</u> (<u>東北大学</u>)</p> <p>部会執行委員： 浅沼 宏 (産業技術総合研究所) 大坪 誠 (産業技術総合研究所) 岡崎 啓史 (広島大学) 掛川 武 (東北大学) <u>下司 信夫</u> (<u>九州大学</u>) 後藤 和久 (東京大学) <u>齋藤 めぐみ</u> (<u>国立科学博物館</u>) 谷川 亘 (海洋研究開発機構) 橋本 善孝 (高知大学) <u>濱村 奈津子</u> (<u>九州大学</u>) 山田 泰広 (九州大学)</p>

専門部会体制

2023 年度	2024 年度
<p>掘削航海専門部会</p> <p>専門部会長： 成瀬 元 (京都大学)</p> <p>専門部会委員： 井尻 暁 (神戸大学) 亀尾 浩司 (千葉大学) 草野 有紀 (産業技術総合研究所) 濱田 洋平 (海洋研究開発機構) 村越 直美 (信州大学) 守屋 和佳 (早稲田大学)</p>	<p>掘削航海専門部会</p> <p>専門部会長： <u>濱田 洋平</u> (海洋研究開発機構)</p> <p>専門部会委員： <u>尾張 聡子</u> (東京海洋大学) 草野 有紀 (産業技術総合研究所) <u>桑野 太輔</u> (京都大学) <u>浜橋 真理</u> (山口大学) 村越 直美 (信州大学) 守屋 和佳 (早稲田大学)</p>
<p>科学推進専門部会</p> <p>専門部会長： 戸丸 仁 (千葉大学)</p> <p>専門部会委員： 悪原 岳 (東京大学地震研究所) 井尻 暁 (神戸大学) 氏家 恒太郎 (筑波大学) 奥村 知世 (高知大学) 鈴木 庸平 (東京大学) 千代延 俊 (秋田大学) 針金 由美子 (産業技術総合研究所) 望月 公廣 (東京大学地震研究所) 守屋 和佳 (早稲田大学) 山口 飛鳥 (東京大学大気海洋研究所) 山中 寿朗 (東京海洋大学)</p>	<p>科学推進専門部会</p> <p>専門部会長： <u>井尻 暁</u> (神戸大学)</p> <p>専門部会委員： 悪原 岳 (東京大学地震研究所) <u>岡崎 啓史</u> (広島大学) 奥村 知世 (高知大学) <u>桑野 太輔</u> (京都大学) <u>瀬瀬 佑衣</u> (名古屋大学) 千代延 俊 (秋田大学) <u>藤内 智士</u> (高知大学) <u>星野 辰彦</u> (海洋研究開発機構) 山中 寿朗 (東京海洋大学)</p> <p>※他 1 名打診中</p>

2024 年 5 月 23 日

日本地球掘削科学コンソーシアム
2024 年度活動方針（案）

日本地球掘削科学コンソーシアム理事会

日本地球掘削科学コンソーシアムの基本的活動を発展させ、社会的課題に資する科学成果の創出と国民への浸透を目指す。新規に開始される国際海洋科学掘削計画（IODP³）および国際陸上科学掘削計画（ICDP）の主要国として、国際連携の強化、科学提案の促進、次世代研究者の育成により、日本のプレゼンスを内外に示す。

理事会の開催

J-DESC 規約に従い、必要に応じて理事会を適宜開催し、重要事項の審議・決定を行う。

総務関連

J-DESC の組織運営に関する検討

J-DESC の組織運営について、効率的かつ効果的な運営を目指し、部会やタスクフォースなどを含めた組織及びその規約等について俯瞰し、整理や見直しが必要な個所についての検討及び最適化を図る。

J-DESC の活動活性化に関する検討

新規に開始される IODP³ が滞りなく進展できるよう、新しい体制における地球掘削科学研究の推進や国際連携の深化に向けての具体的な活動について模索・検討する。将来の地球掘削科学を担う人材、および「国連海洋科学の 10 年」活動を始めとする一般への認知拡大を含めた J-DESC の活動活性化の形について、様々な観点から検討する。

科学戦略、財務、外務、広報・教育の各会務の連携を図り、会員へのサービスや組織の活性化に資する効果的な活動を維持・推進する。

科学戦略関連
地球掘削科学の振興と日本の研究提案力の強化
<p>IODP³やICDPの掲げる科学掘削研究の将来計画と連動して、これらの科学掘削を支える健全で活力あるコミュニティを維持・拡大することを目的とする。具体的には掘削科学に関するアイデアの新規発掘・育成や、掘削科学提案の新規作成への支援などに取り組む。これらの目的に合致する集会・シンポジウムなどを積極的に企画する。</p> <p>IODP³の開始にあたり、コアメンバーである日本 Cとして、科学掘削提案の提出とプロジェクトへの参加を積極的に推進する。また既存コア・データを活用する枠組み（SPARCs、ReCoRDなど）についても積極的な活用を促す。</p>
財務関連
年度予算の策定・運用
<p>J-DESCの財政及び活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定し、その効果的な運用を行うとともに、収入を維持・拡大するために必要な施策を提案する。</p> <p>会員提案型活動経費については、公平性に留意しつつも会員からのボトムアップの提案を推進すべく、適切に運用する。</p> <p>IODP³開始に伴い、科学コミュニティを支えるための資金の確保を積極的に行う。特にワークショップ開催予算について、日本からの貢献を欧州と同程度にするための方策を検討する。</p>
外務関連
<p>掘削プロジェクトや国際ワークショップへの研究者の参加、国際委員の推薦・参加、国内外コミュニティの交流・連携促進等を行う。2050 Science Frameworkの実現に向けた対外的な活動を積極的に行う。掘削科学研究やコミュニティの維持・発展のため、IODP³における国際連携の枠組み構築を主導する。国内外の情勢を分析し、積極的・効果的にコミュニティへ情報展開を行う。国際的合意に基づき、国内の掘削予算や運航の確保のために関係機関に積極的に働きかける。</p>
広報・教育関連
コミュニティの持続的な発展・拡大を目指す戦略的な広報・教育活動
IODP ³ の開始に備え、各種普及・広報・教育活動を行う。会員機関の相互連

携による研究教育資源の有効活用を進める。特に、以下の事項を強化する。
YouTube コンテンツ等の充実、英語や多言語での映像コンテンツの制作を行う。

スクールやワークショップ、SCORE 教育乗船枠等による若手育成・研究コミュニティの底辺拡大を図る。また、関連機関が主催するスクール等への参加支援制度を新たに設ける。各種メディアを活用した国内外への普及・広報活動を展開する。

また、IODP の最後の「ちきゅう」航海である Exp. 405 JTRACK の機会を捉えたアウトリーチ・教育活動を積極的に行う。

2024 年 5 月 23 日

日本地球掘削科学コンソーシアム IODP 部会
2024 年度活動方針（案）

IODP 部会執行委員会

J-DESC 理事会・ICDP 部会と連携し、IODP 部会の基本的活動を維持発展しつつ、国際深海科学掘削計画（IODP³）の開始を始めとする国内外の情勢変化に対応しながら、2020 年度に承認された Science Framework に基づいて、新規活動を創出・企画する。

執行委員会の開催・総務関連

- ・ IODP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項の検討を行い、検討結果を理事会に報告する。
- ・ 掘削航海専門部会、科学推進専門部会の専門部会長を執行委員とし、連携をより円滑に行う。

科学戦略関連

健全で活力ある科学コミュニティの維持・拡大

- ・ 2020 年に発行された科学海洋掘削 2050 サイエンスフレームワークに基づいた掘削提案をコミュニティに積極的に働きかける。
- ・ Post-IODP に関する情報共有に努め、必要に応じて J-DESC 会員へ情報発信を行う。
- ・ J-DESC 会員や国内研究者コミュニティに対して、SCORE の周知活動を強化し、SCORE への掘削提案を奨励する。
- ・ 高知コアセンターとの協働によりレガシーコア・データを活用する国際共同研究の枠組みの検討を前年度に引き続き進め、掘削科学コミュニティの新たな支援策を整備する。
- ・ マントル掘削ワーキンググループの活動を継続し、海洋科学掘削におけるフロンティア領域である岩石圏を対象とした多様な掘削調査提案の創出を目指す。

外務関連
IODP に関わる対外的な活動および支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ IODP³ の発足に向けて、理事会および JAMSTEC 等と協力して IODP³ Planning Meeting に参画し、欧州海洋掘削研究コンソーシアム (ECORD) との協議を継続し、MOU 締結や各種ドキュメントの準備を行う。 ・ IODP³ に設置される SEP (Science Evaluation Panel)、SEA Group (Safety and Environment Advisory Group)、Mission-Specific Platform Facility Board (MSP-FB) 等のパネル委員の公募、推薦を行う。 ・ IODP の国際会議 (SEP、JOIDES Resolution Facility Board、ECORD Facility Board、IODP Forum) に委員・オブザーバーを送り、IODP 推進と国際動向把握に努める。 ・ IODP³ の国際会議 (SEP 等) に委員・オブザーバーを送り、IODP 推進と国際動向把握に努める。
広報・教育関連
<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティの持続的な発展・拡大を目指す戦略的な広報・教育活動を行う。
新規活動の創出・企画の検討
<ul style="list-style-type: none"> ・ 他機関が主催する地球掘削科学に関するスクール等への参加を積極的に支援する。 ・ IODP 航海に応募する大学院生の評価、支援について前年度作成した規則の運用状況を検証し、必要に応じて改定する。
学会等における広報活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事会と協力し、日本地球惑星科学連合 2024 年大会・日本地質学会の大会などへ出展し、IODP の活動を広報する。
若手育成・研究コミュニティの底辺拡大
<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークショップ等を開催し、Post-IODP に関する議論に若手の参加を促す。 ・ IODP³ における枠組みや掘削提案・参加方法についてホームページ等で周知し、若手の参画を促す。 ・ リポジトリコア再解析プログラム (ReCoRD) の教育・アウトリーチ参加枠制度の運用を開始し、大学院生・若手研究者の参加を促す。また、学生の参加に関してはレガシーコアサンプリングのための学生旅費支援制度を活用し支援を行う。

・ J-DESC コアスクールを行う。

出版物等・普及活動・アウトリーチなど

- ・ J-DESC Newsletter の発行に協力する。
- ・ メールニュース「J-DESC Update」、J-DESC ホームページ、Facebook、YouTube J-DESC Channel などの IT メディアを用いた情報発信、広報活動に協力する。
- ・ 博物館等と協力して、「ちきゅう」による掘削航海を広く発信する。
- ・ 2024 年度に実施される J-TRACK 航海との中継イベント等を促進する。
- ・ 関係機関による IODP 航海やその研究成果に関するプレスリリースへ協力する。
- ・ 「国連海洋科学の 10 年」に関連して海洋掘削科学リテラシーの向上に資する活動を推進する。

2024 年 5 月 23 日

日本地球掘削科学コンソーシアム ICDP 部会
2024 年度活動方針（案）

ICDP 部会執行委員会

J-DESC 理事会・IODP 部会と連携し、ICDP 部会の基本的活動を継承しつつ、ICDP Science Plan (2020-2030) の達成に向けた掘削提案の育成強化や、IODP³ との連携に向けた活動を創出・企画する。特に、コンソーシアム参加機関との協力を強化する。

執行委員会の開催・総務関連

- ・ICDP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項を検討・実施し、理事会に報告する。

科学戦略関連

地球掘削科学の振興と日本の研究提案力の強化

- ・日本発の ICDP プロジェクト実現に向け、「ICDP 掘削提案サポート制度」を活用し、新たな科学アイデアの発掘・育成や、新規掘削提案の作成・強化のための支援を実施する。これらの目的に合致する集会・シンポジウム等を積極的に企画する。
- ・日本地球惑星科学連合 2024 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催し 2025 年大会のセッション提案を行う。
- ・ICDP Science Plan (2020-2030) の達成、および IODP³ との連携に向けて、日本の特性を活かした方針・提言を発信する。
- ・2024 年度に実施が予定されている ICDP プロジェクト、ワークショップ、トレーニングコース等への日本から参加を促進する。
- ・日本の研究者が関わった ICDP 関連成果の取りまとめと広報を実施する。

財務関連

- ・ICDP 部会の活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定し、限られた予算の効果的な運用を行う。
- ・会員提案型活動経費への募集・選定・採択を適正に行い、各種会員活動を活性化させる。

外務関連
ICDP に関わる対外的な活動および支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICDP の Assembly of Governors (AOG), Executive Committee (EC), Science Evaluation Group (SAG) の日本選出委員を通じて、ICDP の国際情勢について情報収集を行うとともに、情報を分析して J-DESC の活動に反映する。 ・ SAG の日本選出委員候補者の戦略的な検討を行う。 ・ 2022 年度に更新した MoU に基づき、継続的に ICDP を牽引し、参加主要国として、日本発の掘削提案書の増進に努める。 ・ 現行の MoU が 2026 年 3 月に期限を迎えることを踏まえ、国内コミュニティの意思のとりまとめや成果情報収集、関連機関との調整など、MoU の更新に向けた準備を進める。
国内外コミュニティの交流・連携促進
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事会、IODP 部会と連携し、J-DESC タウンホールミーティング等のコミュニティの交流促進イベントを開催する。 ・ 国際コミュニティのイベント・集会等への日本からの参加を促進し、積極的な情報収集・交流を行う。
広報・教育関連
過去の成果の幅広い広報、新規活動の創出・企画の検討
<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル技術を活用した活動と、対面・実体験による活動のそれぞれの効果を踏まえ、対象や目的に応じた各種普及・広報・教育活動の展開を行う。 ・ 学会等の機会をとらえた広報活動を実施する。 ・ スクールやワークショップ等による若手育成・研究コミュニティの底辺拡大を行う。 ・ 各種メディアを活用した国内外への普及・広報活動を行う。 ・ ホームページに、過去の成果の簡潔な紹介や一般図書の掲載を行う。
出版物等
<ul style="list-style-type: none"> ・ J-DESC Newsletter vol. 17 (日本語) 電子版を発行する。(2024 年 5 月) ・ J-DESC Newsletter vol. 18 (日本語) 電子版の原稿準備を行う。 ・ その他、J-DESC の目的・活動に合致するものを適宜実施する。

日本地球掘削科学コンソーシアム2024年度予算(案)

(単位:円)

科 目	2023年度		2024年度	備 考
	予算額	決算額	予算案	
【収入の部】				
年会費	3,758,000	3,855,000	3,585,000	昨年比同
正会員	3,040,000	3,140,000	2,970,000	
正会員A	2,200,000	2,300,000	2,100,000	100,000円×21団体
正会員B	840,000	840,000	870,000	30,000円×29団体
個人会員	18,000	15,000	15,000	3,000円×5名
賛助会員	700,000	700,000	600,000	100,000円×4団体 200,000円×1団体
掘削提案・成果促進支援収入	0	1,503,109	0	日欧共催WSにかかる資金調達(和歌山県助成金、WS巡検参加費等)
雑収入	0	54	0	
当期収入合計	3,758,000	5,358,163	3,585,000	
前年度繰越金	16,098,817	16,098,817	13,980,189	
収入合計	19,856,817	21,456,980	17,565,189	
【支出の部】				
1 共通経費	7,845,000	7,069,712	4,963,040	
会員提案型活動経費	300,000	300,000	300,000	理事会の承認により上限を超えた予算執行を認める場合がある
広報活動費	4,035,000	4,039,149	1,708,040	シンポジウム開催、学会出展、ホームページ改修・保守、サーバーレンタル、IODP3パンフレット作成、タウンホールミーティング、JTRACKアウトリーチ等
コアスクール開催費	1,455,000	708,734	1,455,000	2024年度は微化石、基礎、同位体、ロギング、古地磁気、Deep Lifeの各コース実施を見込んだ予算額 理事会の承認により上限を超えた予算執行を認める場合がある
会議開催費	60,000	5,500	60,000	会議室借用費、会議用システム利用料等
調査費	300,000	0	150,000	地球掘削科学に係る論文、外部資金等のデータ収集、分析
通信費	30,000	8,600	30,000	
雑費	70,000	48,720	70,000	
謝金	60,000	0	60,000	
事務局業務委託費	530,000	491,720	530,000	
事務局会計業務費	5,000	0	0	
掘削提案・成果促進支援費	700,000	1,467,289	300,000	J-DESCによるWS・研究集会等の開催、掘削提案サポート、SCORE・ReCoRD等の独自プログラムの運用等
SCORE関連支援費	300,000	0		支出項目別に「掘削提案・成果促進支援費」または「学生・若手支援費」に移管・統合し、本項目は廃止
学生・若手参加奨励費			300,000	SCORE教育乗船枠制度、KCCLレガシーコアサンプリングのための学生旅費支援制度、地球掘削科学に関するスクール等参加支援制度を含む
2 理事会活動経費	660,000	166,991	660,000	
理事会活動経費	650,000	162,811	650,000	
雑費	10,000	4,180	10,000	
3 IODP部会活動経費	528,000	170,048	528,000	
執行部会活動経費	508,000	167,958	508,000	
雑費	20,000	2,090	20,000	
4 ICDP部会活動経費	427,000	70,040	427,000	
執行部会活動経費	420,000	67,840	420,000	
雑費	7,000	2,200	7,000	
当期支出合計	9,460,000	7,476,791	6,578,040	
当期収支差額	-5,702,000	-2,118,628	-2,993,040	
前期繰越収支差額	16,098,817	16,098,817	13,980,189	
次年度繰越金(見込)	10,396,817	13,980,189	10,987,149	
支出合計	19,856,817	21,456,980	17,565,189	

日本地球掘削科学コンソーシアム会員リスト(2024年5月現在)

正会員:50 賛助会員:5 個人会員:5

会員種別	会員名称
正会員	秋田大学 国際資源学部
	茨城大学 理学部
	宇都宮大学 地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科 岩盤工学研究室
	愛媛大学 理学部 地学コース
	大阪公立大学 大学院理学研究科 地球学専攻
	岡山大学 理学部 地球科学科
	岡山理科大学 古生物学・年代学研究センター
	海洋研究開発機構 海域地震火山部門
	海洋研究開発機構 海洋機能利用部門
	海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門
	鹿児島大学 大学院理工学研究科 理学専攻 地球科学プログラム
	金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系
	北見工業大学 地域循環共生研究推進センター
	九州大学 大学院工学研究院 地球資源システム工学部門
	九州大学 大学院比較社会文化研究院 地球変動講座
	九州大学 大学院理学研究院 地球惑星科学部門
	京都大学 大学院工学研究科 都市社会工学専攻 地球資源学講座
	京都大学 大学院理学研究科 地球惑星科学専攻
	京都大学防災研究所 地震防災研究部門
	熊本大学 理学部 地球環境科学コース
	高知大学 海洋コア国際研究所
	神戸大学
	国立科学博物館
	国立極地研究所
	産業技術総合研究所 地質調査総合センター
	島根大学 総合理工学部 地球科学科
	信州大学 理学部
	千葉大学 大学院理学研究院 地球科学研究部門
	筑波大学 生命地球科学研究群地球科学学位プログラム
	東海大学 海洋学部
	東京海洋大学 海洋資源環境学部
	東京大学地震研究所
	東京大学 大学院理学系研究科
	東京大学大気海洋研究所
	同志社大学 理工学部 環境システム学科
	東北大学 大学院環境科学研究科
	東北大学 大学院理学研究科/学術資源研究公開センター
	徳島大学 環境防災研究センター
	富山大学 都市デザイン学部 地球システム科学科
	富山大学 理学部 自然環境科学科
	名古屋大学 地球環境科学専攻関連講座/地震火山研究センター/宇宙地球環境研究所/名古屋大学博物館
	新潟大学 理学部/大学院自然科学研究科
	日本大学 文理学部 地球科学科
	兵庫県立大学 大学院理学研究科 地球科学講座
	広島大学 大学院 先進理工系科学研究科
	防災科学技術研究所
	北海道大学 大学院理学研究院/大学院地球環境科学研究科/低温科学研究所
山形大学 理学部 地球科学コース	
山口大学 理学部 地球システム圏科学科	
琉球大学 理学部	
賛助会員	エスケイエンジニアリング株式会社
	株式会社クリステンセン・マイカイ
	シュルンベルジェ株式会社
	ハリバートン・オーバーシイズ・リミテッド
	株式会社マリン・ワーク・ジャパン
個人会員	5名(ウェブ掲載資料では個人名非開示)